

【開発背景】

美容診療に携わる医師数名にヒアリングをした結果、腋臭を主訴で医療機関を受診する患者様は、夏場を中心に多く、実際に診察してみると、1) 全く臭わない、気にしすぎ、2) 少し臭う、3) 臭うなどの3パターンあり、ほとんどの場合は、1)・2) の場合が多く軽症であることなどが分かりました。

このような場合に、患者様のメンタル面にも配慮しながら問診を注意深く行い、「体臭は誰にでもあり、異常ではなく気にする必要はない」旨を伝え、「こまめな洗浄で清潔に保つよう」等の指導を行うと、それでも何らかの治療をして欲しいとの要望を受けることが多いとのことでした。

今回の商品は、既に医師の協力による臨床試験等も報告されていることから、安心して治療補助剤として使え、臭いに敏感になり過ぎている患者様、軽症な患者様、臭いがあり美容外科などでアポクリン腺切除手術を施した後の、予後ケア等に用いる医療機関でのニーズがあることが予想されます。

なお、今後も美容医療に携わる医師に様々なアドバイスを頂きながら、美容医療の治療補助に繋がるような製品の拡充を進めていきます。

美容に関する意識調査の結果の概要

— 調査実施概要 —

- <実施期間> 2007年12月19日～2007年12月21日
- <調査方法> インターネット調査
- <調査対象> 全国の女性20～60代 各200名(計1000名)

全国の女性20代～60代各200名、合計1000名を対象にインターネットにより美容意識のアンケートを行い、その中で肌悩みや化粧品各アイテム使用の有無などを調査しました。

その結果、

- ・20代・30代の4名に1名が、「ワキや足の臭いに関して悩みを保有している」。(調査結果1)
- ・20代から40代の約半数が、デオドラント剤・制汗剤を保有している。(調査結果2)

これらの結果から、多くの一般女性がワキや足などのおいに悩みを保有していることが明らかとなりました。

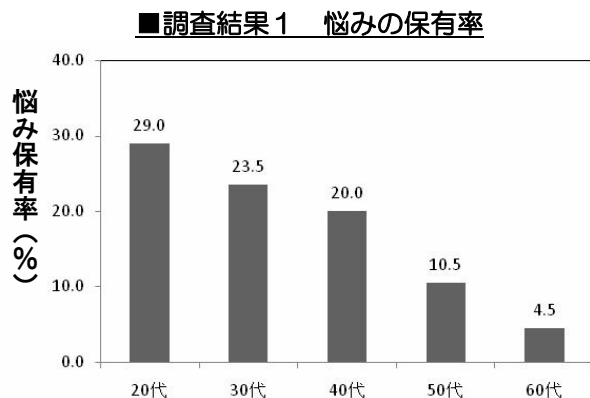


図1.ワキや足の臭いに関する悩み保有率 (%)

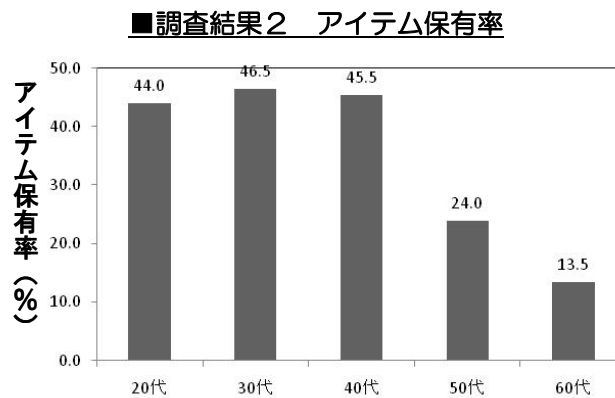


図2.デオドラント・制汗剤アイテム保有率

※掲載しているグラフ、表及び一覧を引用、転載する場合には、「常盤薬品工業 調べ」と明記して下さい。